小型機材の活用及びLCCによる国内新規航空路線の成立可能性に関する研究

空港研究部　国際海事政策分析官　波多野　匠

（キーワード）　国内航空、コスト分析、LCC、小型機

１．本研究の目的と概要

我が国の国内航空輸送は欧米と比較して使用機材が大きい特徴があったが、近年航空各社は、リージョナルジェットと言われる乗客100人以下の機材の導入を進めている。一方、ローコストキャリア（LCC）と呼ばれる低価格を売りにする新規航空会社が欧米、東南アジアで急速に業績を拡大しており、平成24年には、我が国においても、本格的LCC3社が相次いで就航を開始した。本研究は、このような航空輸送を取り巻く状況を踏まえ、機材のダウンサイジングと低価格化により、新規の国内航空路線の成立可能性について検討を行ったものである。

２．国内航空会社のコスト分析

国内航空会社のコストについて、使用機材が1機種で、かつIR資料としてコストを詳細に公開している某航空会社の資料をもとに、運航距離に対応する1便当たりのコストを算出した。また、1座席1キロ当たりのユニットコスト等の比較から、小型機材を運航する場合のコスト水準を試算し、その結果を図１に示す。

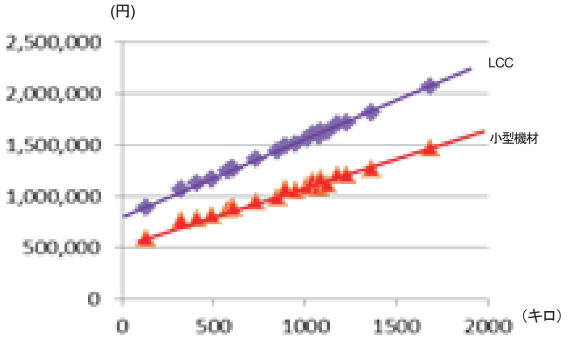

図１　運航距離（キロ）と運航コスト（円）の推定

３．需要の分析と新規路線成立可能性の検討

路線成立可能性の前提となる需要分析は、国総研が開発した需要予測モデルを使用し、人口、経済等の基礎データは2011年の指標を用いて、検討対象路線45路線について、最も理想的な条件として利用しやすい時間の1日2便として試算を行った。また、運賃水準は、小型機材については、概ね現行どおり、LCCについては現行の7割として需要を試算した。この想定需要に対して、座席使用率（LF）と想定運賃収入を試算し、コストと比較して収支の試算を行った。その結果を図２に示す。また、検討の結果、路線成立可能性のある路線を表１に示す。

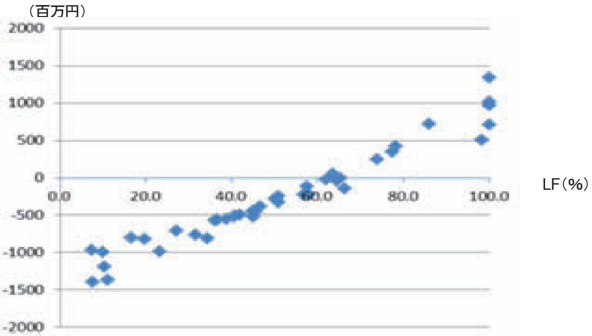

図２　LFと収支の関係（小型機運航の場合）

表１　路線成立可能性のある路線

小型機材の利用で路線成立可能性があると考えられる路線		LCCにより路線成立可能性があると考えられる路線
松本－那覇	仙台－徳島	仙台－徳島
関西－帯広	中部－釧路	関西－帯広
仙台－旭川	新潟－岡山	中部－釧路
成田－花巻	北九州－仙台	仙台－旭川
成田－新潟	仙台－松本	成田－鹿児島
成田－宮崎	成田－鹿児島	成田－花巻
新千歳－宮崎		

４．今後の課題

航空業界を巡る状況変化は非常に早く、本格的LCC3社は今回の想定よりも実際は低廉な運賃を提示している。LCC各社は機材の拡張を予定しており、今後とも、状況のフォローが必要と思料される。

【参考】

1）国総研資料　No. 698
http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn0698.htm